

愛媛県南予地域の方言を残すには

1年1組 山下 桃代 1年2組 高山 華怜 1年2組 宮本 真衣
1年3組 西川 乃愛 1年4組 善家 陽菜 1年4組 野中 春華
指導者 野中 誠也

1 課題設定の理由

日本の各地域に独自の方言が残っているが、その方言が持つ意味や使用方法は時代とともに変化している。私たちの暮らす宇和島周辺に残る方言を研究することで、方言の価値を見つけ、後世に残していくために、この主題を設定した。

2 仮説

宇和島から遠方に行くにつれて方言が伝わりにくくなり、現代に残っている方言は使用しやすいため、残っているのではないかと考えた。また、現在 SNS で多用されている言葉との共通項があるのではないかと考えた。

3 実験・研究の方法

- (1) 宇和島地域の方言を調べる。
- (2) 定量調査Ⅰ（対象：宇和島東高校 1年生 87人）
- (3) 定量調査Ⅱ（対象：宇和島東高校 1年生 56人）

4 結果と考察

- (1) 定量調査Ⅰ

表1 方言の認知度

	一本松	御荘	津島	宇和島	松野	広見	三間	吉田	明浜	日吉	宇和	その他
ぞえな		1	1	12	3	2	5	2		2		1
おっとりしや	1	3	7	14	3	2	5	2	2	1	1	1
行ってこうわい	1	3	4	10	2	2	4	3	2	2		2
きさいや	1	3	7	15	3	2	4	4	2	2	1	2
ぞえな	1		1	8	2	2	5			1		1
おっとりしや	1	2	5	8	2	2	4		1	1		
行ってこうわい		2	3	3		1	1	2	1	2		1
きさいや		1	7	14	3	2	4	3	2			1

私たちは特色のある方言を地域ごとに調べた（表1）。

私たちは以上の結果から地区ごとによっても偏りがあり、その理由は保護者の出身地による影響もあると考えた。よって、宇和島から遠方に行くにつれ、方言が伝わりにくくなるという仮説を立証することは難しい。

(2) 定量調査Ⅱ

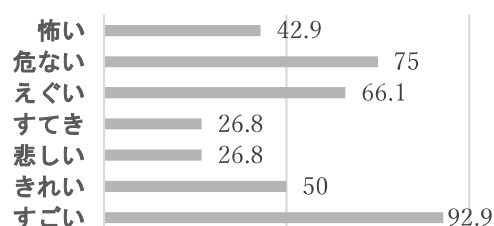


図1 「やばい」の意味

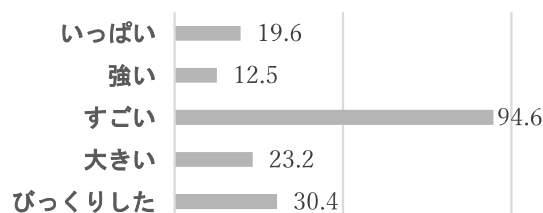


図2 「がいな」の意味

ア 初めに、方言は好きかと方言を残したいかのアンケートを取った。結果はどちらも90%以上を占めていた。この結果から方言に対しての考え方は、極めて良好であると考えた。

イ 「やばい」、「がいな」

2つの結果(図1・図2)をみると、一つの語句に対して複数の意味でとらえることができる言葉が多く使われている。

ウ 子供が壁に落書きをしているとき、どのように注意しますか(図3)。また、共感を求める時どのように答えますか(図4)。

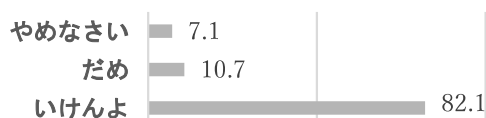


図3 子供が壁に落書きをしているとき、どのように注意しますか

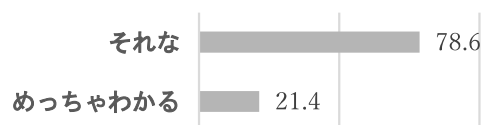


図4 他者に共感を求めるとき、どのように答えますか

図3より「いけんよ」が82.1%、図4より「それな」が78.6%という結果から、3文字から4文字の短く共感を呼びやすい表現を使用している割合が多い。

5 まとめと今後の課題

定量調査Ⅰから現代は人の移動が盛んに行われているだけでなくインターネットの普及によって言葉のやり取りが多様化するとともに短くなっている傾向が見られる。そのため地域に根付いている方言は受け継がれにくいと考えられる。また、定量調査Ⅱから考えられることは今後方言が残っていくならば、それは3文字の言葉や多くの意味が含まれている言葉の可能性が高いと考えられる。その根拠としては、平安時代に書かれた『枕草子』にみられる「をかし」や『源氏物語』にみられる「あはれ」などだけでなく現代でも「ヤバい」なども3文字であることから同様の傾向があるからである。今後の課題は、アンケートの回答者を増やすとともにより精度の高い調査結果を得ること、他地域や古語などにも共通項を探っていくことである。

謝辞

アンケートにご協力していただいた皆様に感謝を申し上げます。

参考文献

- ・株式会社コーノ・ディレクション <https://store.line.me/stickershop/product/1039961/ja>
- ・徳川宗賢(1997)「日本の方言地図」中公新書